

NEWS RELEASE

令和5年3月13日

独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学

日本スポーツ振興センターと北見工業大学 包括連携協定を締結

このたび、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC：JAPAN SPORT COUNCIL）と北見工業大学は、包括連携協定を締結しました。本日3月13日（月）に北海道の大倉山ジャンプ競技場において、JSC 理事長 芦立 訓、北見工業大学 学長 鈴木 聡一郎及び関係者出席のもと、調印式が行われました。

本協定は、JSCの主にハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）と北見工業大学が包括的な連携のもと、相互の人的・知的資源の交流と物的資源の活用を図り、相互に連携・協力することにより、我が国スポーツの推進、スポーツ医・科学等の発展に資するとともに、我が国のスポーツにおける好循環に関わる先導的な役割を果たすことを目的とするものです。

具体的には、JSC/HPSCと北見工業大学との共同研究の実施や人事交流等により、相互の施設・設備も活用しながら、両組織の研究員・スタッフが連携し研究・支援を実施していくことなどを予定しています。

JSCは「スポーツ基本法」の理念に基づき、我が国のスポーツ推進の中心的な役割を果たす独立行政法人として、スポーツ界全体の連携・協働に資することが求められております。今後も大学等の関係機関等と一層の連携強化を図り、成果の社会還元やスポーツを通じた人材育成に取り組んでまいります。

北見工業大学は、積雪寒冷地という立地環境を生かした「冬季スポーツ科学」といった特色ある取組を進めてきました。昨年4月の3大学の経営統合も踏まえ、異分野融合の取組も強化し、このたびの連携協定も契機に、新産業の創出、地域社会の活性化など、さらなる発展を目指してまいります。



左からJSC芦立理事長、北見工大鈴木学長



左からJSC久木留理事、芦立理事長、北見工大鈴木学長、榊井センター長

次ページあり

●日本スポーツ振興センター 理事長 芦立 訓 コメント

「北海道を冬季競技におけるスポーツ医・科学、情報の拠点に」

日本スポーツ振興センターのハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）ではこれまで、国立スポーツ科学センター（JISS）や味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）において、スポーツ医・科学、情報等による研究、支援及びトレーニング拠点として日本のスポーツの発展に地道に取り組みを重ねてきました。今後もスポーツが社会にとって大きな役割を果たすことができるよう取り組んでいく所存です。

そのような中で、このたび、「冬季スポーツ科学研究推進センター」を設置するなど工学的知見を用いた冬季スポーツの研究・支援を推進している北見工業大学と連携協定を締結できたことは、大変意義深いと考えております。

本協定の締結を契機として、互いに持つ資源や強みを生かし合うことで、北海道を冬季競技におけるスポーツ医・科学、情報の拠点として、スポーツ医・科学、情報等による研究・支援、人材育成を更に推進するとともに、ひいては日本のスポーツのさらなる振興に寄与し貢献できるよう努めてまいります。

●北見工業大学 学長 鈴木 聡一郎 コメント

「工学的知見を活用した国際競技力の向上を目指して」

日本のスポーツ医・科学研究の最先端である日本スポーツ振興センターと、こうして包括連携協定を結ぶことは、本学にとりまして、大変意義深く、また、北海道におけるスポーツ振興への貢献を一層進めることができると考えており、大変うれしく思っております。

北見工業大学では、これまで大学で培ってきた様々な工学的知見を活用し、従来とは違ったアプローチを用い、さらに積雪寒冷地という地域特性やカーリングという北見市の地域資源も生かしつつ、地元自治体とも連携し、様々な企業や団体、大学との共同研究を進めるなど、本学ならではの特色ある競技力向上・スポーツ振興へ向けた取り組みを進めてきました。

本協定をきっかけに、研究者の相互受け入れ、学生の派遣などの人材の交流、共同研究の推進、お互いの知見、資源等の共有など、様々な連携が進むことを期待しています。そして、こうした取り組みを契機に、これまで培ってきた工学、情報学といった本学の持っているリソースも有効に活用し、北海道の、さらには、日本中の多くのアスリートのサポートに繋げてまいりたいと思います。